

日本キャリア教育学会 第42回研究大会

The 42nd Conference of Japanese Society for the Study of Career Education

大会プログラム

《大会テーマ》

時間と空間をつなぎ・織りなす
キャリア教育



2020年10月10日(土)



筑波大学
University of Tsukuba

日本キャリア教育学会第42回研究大会

主 催 日本キャリア教育学会

協 賛 NHK エデュケーショナル
実業之日本社
東京書籍
おきなわ教育ラボ
東洋館出版社
風間書房
小学館
時事通信出版社
図書文化社
ミネルヴァ書房

本研究大会を開催するにあたり、上記の団体より多大なご支援ならびにご協力を賜りました。心より感謝の意を表します。

2020年9月15日
日本キャリア教育学会 第42回研究大会実行委員会

ごあいさつ

皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、日本キャリア教育学会第42回研究大会が、2020年10月10日（土）に開催されることになりました。大会テーマは「時間と空間をつなぎ・織りなすキャリア教育」です。

D.E.スーパーが、「人間の総体的な発達に伴って進展するキャリア」を前提とした大著 *The Psychology of Careers* を上梓してから60年以上の歳月が流れました。その後、今日に至るまで、時間の経過に伴う人々のキャリア形成のあり方について数多くの研究が積み重ねられてきたことはご存じの通りです。また、技術革新等の急速な進展や、社会の様々な側面におけるグローバル化などによって、時間や空間がもつ意味や価値自体も大きく変容し、それらを認識する私たち一人一人の価値観そのものの多様化も同時に加速していることは言うまでもありません。

このような中で、本年度より、児童生徒が小学校から高等学校までの「自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオ」としての「キャリア・パスポート」が、国内の初等中等教育段階にある全ての学校に導入されることとなりました。児童生徒はもちろん、私たち一人一人が、これまでの諸経験の意味や価値を顧みつつ、今後の自らのキャリアを切り拓き、創り上げるべき時代を迎えたと言えるでしょう。まさに、これまで過ごしてきた時間と空間を振り返り、つなぎ、織りなしつつ、キャリアを形成していくことが求められています。

では、このような一人一人のキャリア形成を支援し、必要な指導・助言等を提供する役割を担うキャリア教育はどうあるべきなのでしょう。——今回の研究大会では、この問いを中核としつつ、皆様とともに議論し、キャリア教育の未来について考える機会にしたいと存じます。

しかしながら、7月以降に新型コロナウイルス国内感染状況が再び悪化に転じたことなどにより会場となる教室等の使用許可が得られず、また、今後の見通しも困難であること等を踏まえ、極めて残念ながら筑波大学を会場とした集合形式での研究大会の実施を断念致しました。多くの研究成果をご発表いただけるとのご意向を賜っていながら、フェイス・トゥ・フェイスでの意見交換・情報交換の機会を設けることができませんことを深くお詫び申し上げます。事情ご賢察の上、何卒ご海容ください。

なお、筑波大学を会場とした集合形式での大会は開催できかねる状況を迎えてはおりますが、発表論文集の大会専用ウェブサイトでの公表と事前参加登録者全員への送付をもって本研究大会自体は実施したと致します。

また、Brian Lee氏による基調講演「香港の学校におけるキャリア教育の現在—大規模抗議デモと新型コロナウイルス感染拡大のインパクトを超えて—」、及び、実行委員会企画シンポジウム「時間と空間をつなぎ・織りなす『キャリア・パスポート』—先行的実践事例が示す可能性と課題—」につきましては、10月10日の午後にZoomによるウェビナー形式で開催し、大会での発表及び大会への参加のお申込みをいただいた方々に限ってリアルタイムでご視聴いただき、その場でチャット（テキスト投稿）形式でのご質問もいただけるよう、準備を進めております。多くの会員の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

2020年9月15日

日本キャリア教育学会第42回研究大会実行委員会
委員長 藤田晃之（筑波大学）

1 研究大会日程

10月10日（土）

Zoomによるウェビナー形式（オンライン）で開会式、基調講演、実行委員会企画シンポジウムを開催します。アクセス方法等につきましては、大会参加のお申込みをいただいた方に、電子メール等でお知らせいたします。

13:00-13:15	開会式
13:15-14:25  Brian Lee 氏	基調講演 Brian Lee 氏 Executive Director, Hong Kong University Graduates Association Education Foundation（香港大学同窓会教育基金 事務局長 [元 香港特別行政区政府教育局 主任視学官（ガイダンス及び生徒指導担当）] 演題（仮） 香港の学校におけるキャリア教育の現在 ー大規模抗議デモと新型コロナウイルス感染拡大のインパクトを超えてー ※英語での講演です。日本語への逐次通訳を致します。
14:25-14:40	休憩
14:40-17:30	実行委員会企画シンポジウム 時間と空間をつなぎ・織りなす「キャリア・パスポート」 ー先行的実践事例が示す可能性と課題ー 《ご登壇予定者》 小 学 校：福島県棚倉町立棚倉小学校 小松光恵先生 中 学 校：大分県津久見市立第一中学校 竹田順和先生 高等学校：東京都立武蔵高等学校 峯岸久枝先生 行 政：文部科学省初等中等教育局 生徒指導調査官 長田徹先生

※自由研究発表と会員企画シンポジウムについては、発表論文集の大会専用ウェブサイトでの公表と事前参加登録者全員への送付という形で実施します。

2 参加要領

■研究大会参加費

2020 年 9 月 25 日（金）までに、第 42 回研究大会ウェブサイトで参加申込みフォームにご記入の上、参加費用をお振込ください。振込が確認できましたら、参加予約手続き完了とさせていただきます。オンラインでの開催のため、事前の登録が必要であり、当日参加はできません。

参 加 費 一般会員 5, 0 0 0 円（発表論文集代含む）

 学生会員 3, 5 0 0 円（発表論文集代含む）

 非学会員 5, 5 0 0 円（発表論文集代含む）

※ 非学会員でガイダンスカウンセラー資格をお持ちの方は、一般会員と同じ参加費で参加できます。

オプション 研究大会論文集（別売り） 1, 0 0 0 円（1 冊）

■連絡先

大会に関するご質問などがございましたら、できるだけメールにてお問い合わせください。

☐ 事務局長 京免 徹雄

☐ 所在地 筑波大学人間系教育学域内（〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1）

☐ 連絡先 TEL. 029-853-4598（筑波大学人間系教育学域事務室）

E-mail: jssce2020@human.tsukuba.ac.jp

（緊急の場合以外は、メールでお問合せください）

3 基 調 講 演

2020 年 10 月 10 日 13:15~14:25 (オンライン)

**Theme : Career Education Practices in Schools in Hong Kong Today:
Beyond the Impacts of the Massive Protests and the Novel
Coronavirus Outbreak**

(香港の学校におけるキャリア教育の現在一大規模抗議デモと新型コロナウイルス感染拡大のインパクトを超えて)

Speaker : Mr. Brian Lee

**Executive Director, Hong Kong University Graduates
Association Education Foundation**

(香港大学同窓会教育基金 事務局長 [元 香港特別行政区政府教育局 主任視学官 (ガイダンス及び生徒指導担当)])

香港では、逃亡犯条例改正案への抗議デモに端を発した民主化を求める大規模デモが、昨年(2019年)3月から1年以上にわたって継続しました。とりわけ秋から冬にかけてデモが激化し、市民生活にも多大な影響が及んだことは世界的な関心を集めました。そして本年(2020年)1月からは、新型コロナウイルス感染症拡大抑止のため、市民生活には更に広範な制約が加わり、今日においてもなお感染再拡大の危険性を排除するための工夫が重ねられています。

このような前例のない状況の中で、各学校はどのようにして子供たちの学習機会を保障したのでしょうか。刻々と変わる社会情勢の中で、キャリア教育の在り方はどのような変容を遂げ、いかに提供されてきたのでしょうか。

今回は、長年にわたり香港特別行政区政府教育局においてガイダンス及び生徒指導関連施策の策定と各学校への指導・支援の提供に携わっていらしたブライアン・リー氏をお招きし、激動の香港におけるキャリア教育の現在についてご講演を賜ります。

【Mr. LEE Shiu-fung Brian プロフィール】



Qualifications

B.A. (Sociology) University of Calgary 1977
Cert. in Education (English), University of Hong Kong, 1982
Diploma in Psychology and Education of Children with Special Needs of Education,
University of London Institute of Education, 1986
M. Ed. (Education Management and Administration), University of Hong Kong, 1992

Main Work Experiences

Teaching Experiences as an English Teacher (1977-1985)
Special Education Section/Student Discipline Section/Guidance & Discipline Section,
Education Bureau, Assistant Inspector to Principal Inspector (1985-2012)
Retirement w.e.f. 1 July 2013
Project Development Manager (Career Guidance), Education Bureau (2014-2016).
Chief Officer (Special Duty)2, Education Bureau (2016- 2017)
Chief Project Officer (Home-school Cooperation), Education Bureau (2017-2019)
Executive Director, Hong Kong University Graduates Association Education Foundation
(2019 – present)

4 実行委員会企画シンポジウム

2020 年 10 月 10 日 14:40～17:30（オンライン）

テーマ：

時間と空間をつなぎ・織りなす「キャリア・パスポート」
ー先行的実践事例が示す可能性と課題ー

モデレーター：藤田晃之（筑波大学）

京免徹雄（筑波大学）

パネリスト

小松光恵（福島県棚倉町立棚倉小学校）

竹田順和（大分県津久見市立第一中学校）

峯岸久枝（東京都立武蔵高等学校）

長田 徹（文部科学省初等中等教育局 生徒指導調査官）

企画趣旨

新しい学習指導要領は、総則において、「児童/生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」と定めました。そして、キャリア教育の「要」の役割を担った学級活動・ホームルーム活動においては、学校種・学校段階を問わず「(3)一人一人のキャリア形成と実現」が新たに設けられ、そこでは「学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童/生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること」と示されました。

そして、昨年(2019 年)3 月には、文部科学省初等中等教育局児童生徒課が、教育委員会等に向けて事務連絡を発出し、上に引用した「児童/生徒が活動を記録し蓄積する教材等」を「キャリア・パスポート」と呼び、「都道府県教育委員会等、各地域・各学校で柔軟にカスタマイズし、2020 年 4 月より、すべての小学校、中学校、高等学校において実施することとする」と明示しました。

今回は、「キャリア・パスポート」を含むキャリア教育推進施策を担当する文部科学省の長田調査官と、実際に「キャリア・パスポート」を活用した指導実践をなさっている先生方 3 名をお招きし、その可能性と課題についてお話をいただきます。その際、私たちの多くが抱いている疑問——なぜ、今、「キャリア・パスポート」が導入されたのか。学年や校種を越えた引き継ぎは可能なのか。本当に、子供たちの主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながり得るのか。先生方の多忙化を助長してしまうのではないのか。等々——についても、忌憚なく伺っていきたいと考えています。

5 個人研究発表(口頭発表)

登録番号	1
氏名・所属	青木信一・大阪市立白鷺中学校
題目	「笑育」の取り組みが、中学生のキャリア発達に及ぼす影響
要旨	「笑育」とは、アナウンサーや漫才師などを学校に派遣し、子ども達が実際に台本から漫才を作り、人前で発表するという活動を通して、基礎的・汎用的能力の育成をめざすプログラムである。 本稿では、A中学校と松竹芸能との協働による、特別活動の時間を使った「笑育」の取り組み(全14回・1年生)に着目し、4件法によるアンケート調査と、テキストマイニングによる自由記述の分析から、「笑育」が子どものキャリア発達に及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。

登録番号	2
氏名・所属	○秋山和雄・LEC 東京リーガルマインド 宮坂吉有樹・株式会社楽立 縁 Joy 坂本高英・大阪市立都島第二工業高等学校 門川城二・大阪市立生野工業高等学校
題目	地域主権時代における「新しい人物重視型試験」と人材育成研究(1)ーキャリアデザインの形成を支援し、プロフェッショナルな公務員を育てる視点も加えてー
要旨	1980-90年代に形成された「人物重視型試験」は、分権後職員が市民等と協働し専門知識を活かし、政策を立案・実施するようになるにつれ、積極性、社会性やコミュニケーション力等のコンピテンシーを評価する「新しい人物重視型試験」へと発展的に変化してきた。そこで本研究は、47都道府県の人材育成基本方針等を分析した。結果、44都道府県で「新しい人物重視型試験」の実施を推認した。そしてこの実施は、今後の更なる地域主権の充実に向け職員のキャリアデザイン形成を支援し、より専門的なプロ公務員の育成には必須なものとの結論に至った。

登録番号	3
氏名・所属	芦沢柚香・筑波大学大学院人間総合科学研究群
題目	1970年代アメリカのキャリア教育実践における外部資源の活用方策ーゲストスピーカーの果たした役割に着目してー
要旨	地域社会や産業界等の外部資源を活用した、体験的なキャリア教育の機会が果たし得る機能への示唆を得るべく、1970年代アメリカの、ゲストスピーカーを活用した実践の分析を行った。その結果、多くの事例は各職業と教科学習の関連を示すことのみをゲストスピーカーの役割とし、それらの実践は生徒のキャリア開発援助になり得ていないと評価されてきた一方、一部の事例では、より現実的な文脈における新たな視点や問いの提示をその役割とし、体験活動の機会を、学習内容を深化させるきっかけとして活用させていたことが明らかとなった。

登録番号	4
氏名・所属	○新井立夫・文教大学経営学部 山岡三子・株式会社セント・フォース 萬年山啓・文教大学経営学部 石塚浩・文教大学経営学部
題目	社会的動機の様式（利己性・利他性・集団性・原理性）におけるキャリア選択の分析～大学生（2020年度入学1年生）のキャリア選択の動機・認知様式に関して～
要旨	日本キャリア教育学会第37回研究大会にて高校（進学校）、第38回高校（進路多様校）、第39回高校（専門学科）、第40回大学1年生を調査対象者として口頭発表した。コロナ禍においてこれまで、裏付けされた仮説の汎用性をさらに高めるために、2020年度入学の1年生を対象者として、調査分析をする。社会心理学者のダニエル・バトソンが示した4つの社会的動機の様式を主軸とし、キャリア選択の価値観を利己性、利他性、集団性、原理性の視点から捉え、自己のキャリア選択の志向がどのように影響されるのかを明らかにする。

登録番号	5
氏名・所属	○新目真紀・職業能力開発総合大学校 石田百合子・熊本大学教授システム学研究センター
題目	インストラクショナルデザインを用いた工学系学生向けジョブ・カード作成支援に関する考察—TEM分析の分岐点におけるSG/SDの効果に着目して—
要旨	本研究では、工学系学生向けキャリア開発支援科目において、キャリア意識の育成を目指し、ジョブ・カード（JC）の作成支援プログラムを開発した。開発に際してはインストラクショナルデザイン（ID）手法の一つであるメルルの第一原理を適用した。プログラムの学習効果について、質的分析手法の1つであるTEM分析を実施した結果、等至点（EFP）に到達しない受講者があり、プログラム受講過程でJC作成の支援者の視点を醸成できていない可能性が確認された。

登録番号	6
氏名・所属	家島明彦・大阪大学キャリアセンター
題目	政策におけるキャリア教育の概観—政策リサーチを使った省庁横断型検索の結果分析—
要旨	本研究では、近年の政策において「キャリア教育」がどのように扱われてきたかを概観し、今後のキャリア教育研究の方向性・可能性について検討した。具体的には、官公庁の公開文書を網羅的・横断的に検索できるツールである「政策リサーチ」を使用し、「キャリア教育」というキーワードで検索した結果を整理・分析した。その結果、さまざまな省庁がキャリア教育に言及していることのエビデンスが示され、キャリア教育に対するさまざまな期待や課題が明らかとなった。本学会の構成員にとって有益な情報と視座を提供できると考えられる。

登録番号	7
氏名・所属	○石黒順子・東洋学園大学現代経営学部 坊隆史・東洋学園大学人間科学部 安藤拓生・東洋学園大学現代経営学部
題目	模擬就職活動を通じた学生の職業人としての性格特性の変化—Caird の“General measure of Enterprising Tendency Test”を用いて—
要旨	私立 T 大学が 3 年生を対象に行う「キャリアデザイン」という授業では、模擬就職活動として、エントリーシートの執筆や、グループ面接・グループディスカッションの実践を行っている。本稿では、その授業の前後で受講学生が持つ職業人としての性格特性の自己評価にどのような変化があったのかを議論する。その結果、学生の職業人としての性格特性に対する自己評価に関してポジティブな変化がみられた。今後は個々の学生の変化の大きさに着目し、質的データから変化の要因を探っていききたい。

登録番号	8
氏名・所属	○伊藤良介・加古川市教育委員会青少年育成課 溝邊和成・兵庫教育大学
題目	小学校総合的な学習の時間における ICE モデルを活用したキャリア教育の授業改善—自己成長の作品作りと社会貢献（地域清掃活動）による自己有用感向上効果について—
要旨	小学 6 年生の総合的な学習の時間に、「理想の姿をマンドラで表現し、学びを生かす活動に取り組もう」という単元を設定し、ICE モデルを活用した実践研究に取り組んだ。ICE モデルの E（Extensions）を自己成長の作品作り、貢献活動とし、学級や地域における自己有用感向上について検証した。分析の結果、学級における自己有用感は向上し、地域における存在感や貢献性が向上した。このことから、生き方を探究するキャリア教育において作品作りや貢献活動を行うことは、自己有用感を向上させる一助になり得るといえる。

登録番号	9
氏名・所属	李宜貞・創価大学大学院博士後期課程
題目	韓国における特殊学校の中等部 2 年生が学んだキャリア教育の取り組み—特殊学校教師が捉える自由学期制（自由学年）の教育的意義と課題に焦点をあてて—
要旨	韓国の特殊学校においてキャリア教育の効率性を向上させるため、新たに導入・運営している自由学期制に焦点を置き、障がいをもつ生徒が、一層の自己理解を深め、自己を啓発し、卒業後も一社会人としての役割を担い、幸福な人生を送る上で、特殊学校における独自の体験活動プログラムの開発やキャリア教育のあり方、より一層の工夫と努力が望まれる。 また韓国の自由学期制という実践的試みと、日本の特別支援学校における教育実践との比較を通して、特別支援におけるより効果的なキャリア教育のあり方についても検討していく必要がある。

登録番号	10
氏名・所属	○宇都宮大輝・関西大学大学院総合情報学研究科社会情報学専攻 久保田真弓・関西大学
題目	日系ペルー人 3 世のルーツを活かしたキャリア形成と家庭の両立を促す社会的要因
要旨	本研究は、日系人が母国のルーツを活かしたキャリア形成と家庭の両立を促す社会的要因について明らかにしたものである。本研究では、NPO の代表を務める日系人の 50 代女性のライフストーリーについて Trajectory Equifinality Model(TEM)を用いて分析を行った。結果として、家庭内での役割分担と、同じ専門性の文脈を持つ日本人との関係性が自律的なキャリア形成と、ルーツを活かした家庭形成に肯定的な影響を与えることが明らかとなった。

登録番号	11
氏名・所属	胡田裕教・大阪産業大学
題目	高等学校のキャリア教育におけるカリキュラム研究の課題—実態の動向と研究の系譜の検討を通して—
要旨	本研究の目的は、高等学校の授業で行われているキャリア教育実践に内在する課題をカリキュラム研究の視点から明らかにすることである。その方法として、キャリア教育の実態の動向とキャリア教育の研究の系譜の 2 つのアプローチから現状と課題を検討する。結果として、理論研究は提示されているが、カリキュラムを立案するときに参照しうる研究が十分にはなされていない。そして、実践研究も数多く提示されているが、体系的につなぐという枠組みが存在しない。したがって、それらをお互いに参照できる体系的な理論的枠組みが求められる。

登録番号	12
氏名・所属	岡部敦・札幌大谷大学社会学部地域社会学科
題目	バルネラブルな若者の学びの機会保障に関する研究—カナダ・カルガリー市レイーズ・ディーン高校の事例—
要旨	本発表は、社会経済的な課題を抱え、高校中退など社会的排除の危機に直面する可能性のある若者に学びの機会を保障するという課題について検討することを目的とする。その一つの事例として、10 代で妊娠・出産を経験した女子を受け入れるカナダ・アルバータ州カルガリー市のレイーズ・ディーン高校の事例を紹介し、その設立の経緯及びカリキュラム上の特徴を明らかにし、キャリア教育における社会正義の可能性について検討する。なお、本発表は、現在継続中の研究の中間発表的な位置付けであることを断っておく。

登録番号	13
氏名・所属	小沢征司・埼玉大学大学院教育学研究科
題目	キャリア教育を視野に入れた中学校数学科の授業の研究—一次関数の利用に関する教材開発—
要旨	学力調査より、日本の中学生の多くは数学を学ぶことが具体的に将来、特に働く中で活用されるイメージを持っていないことがわかった。そこで、キャリア教育を視野に入れ、様々な職業が数学と関連していることを生徒が実感できる授業について研究を進めた。本稿では一次関数の利用の単元について、実際に職業の中で数学が用いられる場面を取り入れた教材を作成し、それを数学教育に関する講義を履修している大学生に解いてもらい教材の妥当性の検討している。また基礎的・汎用的能力と数学の授業で育成される能力の関連性について検討を行った。

登録番号	14
氏名・所属	鬼塚拓・宮崎大学教育学部附属中学校
題目	キャリア教育におけるパターン・ランゲージの可能性—学校（教師）と子どもたちをつなぐ媒体—
要旨	本研究の目的は、キャリア教育実践において、学校（教師）と子どもたちをつなぐ有効な媒体となりうるパターン・ランゲージに着目し、その可能性を明らかにすることにある。本研究の分析対象は、宮崎大学教育学部附属中学校におけるキャリア教育実践である。実践の分析を通して明らかになったパターン・ランゲージの可能性は3つある。第1に「子どもたちへの伝わりやすさと実践のしやすさ」、第2に「子どもたちの自己分析・自己評価のしやすさ」、第3に「カリキュラムマネジメントの進めやすさ」である。

登録番号	15
氏名・所属	勝田みな・名古屋経営短期大学子ども学科
題目	校長が進めるキャリアカウンセリング—対話でお互いを尊重し合える関係作り—
要旨	学校が機能を十分に果たし、機動的な学校運営が行われるようにするためには、責任者である校長のリーダーシップが求められる。また、校長が教職員一人一人を理解し、信頼関係をもち、気軽に声をかけ合える間柄を築いていくことも重要である。働きやすい職場作りとして、職員室の雰囲気を温かいものだと感じられるようにするというひとつの手段として、校長が教師たちに行うキャリアカウンセリングの必要性について、校長の語りやキャリアカウンセリングの取り組み方を考察する。

登録番号	16
氏名・所属	上西智子・明治大学大学院情報コミュニケーション研究科
題目	経営学部生が長期海外インターンシップで直面する困難と乗り越え方
要旨	本研究では都内 T 大学経営学部が正課科目で実施した 4 ヶ月～7 か月の東南アジアでの長期海外インターンシップ参加した 3 年次の学生が、現場でどのような困難に直面し、どのように乗り越えたかを明らかにすることである。学生 10 名への半構造化インタビュー調査とし、事例－コード・マトリクスで分析を行った。分析の結果、19 の困難のカテゴリーが導き出された。乗り越えるためにインターンシップ参加までの経験や学びを土台として、実践することで成長する一方、実践しないため変化が見えず成長していないことが明らかにされた。

登録番号	17
氏名・所属	○久司一葉・金沢医科大学一般教育機構医療人文学 澁谷良穂・金沢医科大学一般教育機構機 高道三春・内灘町消防本部
題目	コロナ禍における救急車同乗体験シミュレーション実習の試み－プロフェッショナルリズム教育科目の責務－
要旨	令和 2 年度コロナ禍において、実施したシミュレーション実習について報告する。医療プロフェッショナルリズム教育として実践している救急車同乗体験実習が、令和 2 年度より実習変更となることを機に実習目的や目標、方法論を見直した。消防署での聞き取りを行い実態の把握と次年度に向けた調整を行い、実習準備を進めていた。ところが COVID-19 による現場での体験実習が中止となり、急遽視聴覚教材を用いた体験実習にかわる方法に変更した。約 30 分の ZOOM を介した映像視聴後のアンケートでは、学生の 97.2%が医学生であることを再認識している結果であった。

登録番号	18
氏名・所属	小泉令三・福岡教育大学
題目	若年就業希望者のための社会的能力向上ワークショップ開発－社会性と情動の学習プログラム「SEL-8Career」の試行－
要旨	教育的援助ニーズを有する若年就業希望者 4 名を対象に、他者と関わる社会的能力の向上を目指して、社会性と情動の学習（SEL）の枠組みにもとづく SEL-8Career(Social and Emotional Learning of 8 Abilities for Career Development)プログラムを開発して、5 セッション試行した。セッションごとの振り返りからは、各回の目標をほぼ達成することができたと考えられるが、日常生活での強化の不足が課題としてあげられた。

登録番号	19
氏名・所属	神崎秀嗣・秀明大学看護学部
題目	看護師養成課程解剖学教育に教育カウンセラー的関わり方を導入の効果
要旨	解剖学は医療専門職の養成においては、基本的科目である。これまで、ガニエの9教授事象を用いた講義中心の授業を行っていたが、学生には退屈で分かりにくいようであったことから、学生との関わり方を重視し、仕事理解を促すような講義、「ゆるい」質問を投げかけるペアワーク、「身体の白地図」に臓器・血管を記載するようにグループワークを行った。その結果、学生からは「先生の質問が面白い」「楽しい」などの言葉が定性的なインタビューから出た。解剖学においても、ペアワーク、グループワークは有効な手法に思われた。

登録番号	20
氏名・所属	小菅清香・学習院大学文学部心理学科
題目	大学生の就職活動目標が情報探索戦略に与える影響について—内定獲得時期に着目して—
要旨	就職活動を行う学生は、就活スケジュールの影響を受け、かつ就職活動の進捗が異なることから、調査時点で重視される目標や活動は異なることが予想される。焦点型戦略をもたらし志望の明瞭さとJSGの「一社集中」が時間経過に伴い変化するのかに着目して構造方程式モデリングにより交差遅延パネルモデルを構成して分析を行った。その結果、志望の明瞭さとJSGの「一社集中」は時間経過に伴い変化しないことが明らかとなり、両者を規定する要因についての検討が必要であることが示唆された。

登録番号	21
氏名・所属	○小林通浩・鳴門教育大学大学院学校教育研究科 黒田麻衣子・鳴門教育大学 竹口幸志・鳴門教育大学
題目	商業高校生のキャリア成熟と進路選択自己効力感育成の実態
要旨	本研究では、商業高校Aの生徒やその卒業生を対象として、進路選択自己効力感の質問紙調査や聞き取り調査を実施し、現在の商業高校におけるキャリア成熟や進路選択自己効力感の育成の実態を分析した。その結果、商業高校Aにおける現行の指導では、生徒の進路選択自己効力感の十分な育成やキャリア成熟を目指すことは困難であることが明らかになった。生徒のキャリア成熟に向けて、高等学校商業科目の教育課程上の改善が求められる。

登録番号	22
氏名・所属	○小山知子・駿河台大学キャリアセンター 杉本英晴・駿河台大学心理学部
題目	ライフ・キャリアの視点を重視した授業が大学生のキャリア意識・行動に及ぼす影響—ワーク・キャリアの視点を重視した授業による教育効果との比較検証—
要旨	本研究では、ライフ・キャリアの視点を取り入れた授業を受けた大学生のキャリア意識・行動について、ワーク・キャリアを中心とした授業の受講者との比較検証を行った。ライフ・キャリア教育科目群は、社会的役割を視野に入れ、進路選択したいと考えるようになっていた。一方、ワーク・キャリア教育科目群では、興味関心を持たずにいた業界を視野に入れ、就職活動に向き合おうとする意識が高まっていた。本結果から、ライフ・キャリアの視点を重視した授業は、人生における役割に対する意識を形成し行動を促す教育効果を有すると考えられる。

登録番号	23
氏名・所属	○佐藤美輪・仙台青葉学院短期大学観光ビジネス学科 小形美樹・仙台青葉学院短期大学
題目	奨学金利用状況からみる短期大学生の実態
要旨	本研究では、2020年1月に短期大学の社会系学科の学生を対象としてアンケート調査を行い、奨学金借入の実態と奨学金を借りて進学せざるを得なかった状況について分析した。 6割程度の学生が奨学金を利用し、利用者の半数が奨学金を借りなければ就学不可能な状況であった。利用学生は奨学金を借金として捉えており、将来予想も悲観的になることが示された。将来に対する不安感や長時間のアルバイトにつながり、学業に専念できない事態を招いていた。この状態を解消するには、給付型奨学金の充実や大学独自の奨学金の整備などが望まれる。

登録番号	24
氏名・所属	○座覇真理子・株式会社ケイオーパートナーズ 喜屋武裕江・一般社団法人グッジョブおきなわプロジェクト 三村隆男・早稲田大学教育・総合科学学術院
題目	沖縄県における地域連携型キャリア教育プログラムの効果検証に向けた予備調査実践
要旨	キャリア教育における追指導は重要な課題であるが研究例は少ない。本研究は、沖縄県で長年実施されている産学官地域連携型キャリア教育における、小学生を対象としたジョブ・シャドウイングを中心としたキャリア教育プログラムがその後の進路決定にどのような影響を与えたかを調査するものである。特徴は、官として教育委員会が参加し複数の小学校の卒業者を対象に調査するもので、従来の学校単位での追指導とは異なる点である。今回は令和元年に実施された予備調査の結果を報告し、今後の研究へのご示唆を賜りたい。

登録番号	25
氏名・所属	○清水克博・愛知教育大学教育科学系 胡田裕教・大阪産業大学 角田寛明・東北学院大学
題目	学びをつなぐキャリアポートフォリオにおける自己評価と相互評価の可能性 —SCATに基づく教員インタビュー調査の分析を通じて—
要旨	全国のキャリア教育研究の調査結果に基づき、キャリアポートフォリオを用いたキャリア教育の実践校を抽出して、開発担当教師にインタビュー調査を実施し、語りを SCAT によって分析した。分析によって出たストーリーラインと理論記述、そして析出したカテゴリーを構造化した結果、キャリア教育として学びをキャリアポートフォリオで用いて評価する「学びの評価」をするためには、生徒の自己評価に加えて級友との相互評価が構成要素として不可欠と教師が考えていることが明らかになった。

登録番号	26
氏名・所属	白井章詞・長崎大学多文化社会学部
題目	大学生活を通じたビジョンの発達の变化—地方にある国立大学文系学部 of 学生に着目して—
要旨	本研究では、大学生のキャリアビジョンと進路選択との関係について総合的に検討し、大学として、どのような支援が可能なのかについて考えた。その結果、学生のキャリアビジョンの発達は、「成長型」「就活型」「再構築型」「一環型」に分類された。キャリアビジョンには、行動を促すだけではなく、思考を整理する機能があると考えられ、目標達成に向けた行動計画の策定や、物事の判断基準になっていることが考えられた。これらの結果からは、学生のビジョンのありように着目したキャリア支援の必要性が認められた。

登録番号	27
氏名・所属	○高橋望・琉球大学大学評価 IR マネジメントセンター 森利枝・大学改革支援・学位授与機構 宮崎和光・大学改革支援・学位授与機構
題目	大学の学位授与方針と学位に付記する専攻分野の名称の関連性の検討
要旨	本研究は、大学が学生の将来のキャリアに与えるシグナリングの機能を担保するかという観点から、学修成果を指示する情報である学位授与方針（DP）と学位に付記する専攻分野の名称（付記名称）が関連するかについて、DP において授与される付記名称を選択させるマッチングテストを幅広い年齢層の対象者に実施することで検討した。結果から、まず、全体的に DP と付記名称の相関は低いこと、さらに、保健以外の学問分野にて唯一名称は DP との相関が高く、ついては、学修成果のシグナリングが比較的有効に機能していることが示唆された。

登録番号	28
氏名・所属	田澤実・法政大学キャリアデザイン学部
題目	キャリア教育プログラムを受講する大学生の到達目標に対する自己評価
要旨	本研究の目的は、大学における体験型科目「キャリアサポート実習」を履修する学生が授業を通じて、授業の到達目標に対する自己評価をどのように変化させるのかについて明らかにすることであった。58名の学生は「キャリアサポート実習」の到達目標をもとにして独自に作成した15項目について、4月、7月、1月に回答した。全体的な結果として、到達目標に対する学生の自己評価は授業を通じて上昇していた。学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）とも合わせて達成状況を査定していく必要がある。

登録番号	29
氏名・所属	○田中哲也・長岡市立関原中学校 小林登美夫・三条市立大島中学校 山崎寛山・三条市立大島中学校
題目	教科指導におけるキャリア教育の実践―指導過程における基礎的・汎用的能力の位置づけを通して―
要旨	学習指導要領が改訂され、キャリア教育の充実が一層重視された。しかし、中学校の現状では教科指導におけるキャリア教育の実施状況は半数以下である。そこで、日常の授業の指導過程において5つの共通実践事項を設定し、基礎的・汎用的能力を基にした5つの身に付けたい力を育成した。その結果、教師の積極的な授業改善を促し、生徒の学習意欲を高め、確かな学力の定着につながった。教科指導の指導過程におけるキャリア教育の実践により「主体的・対話的で深い学び」を実現できると考える。

登録番号	30
氏名・所属	田中美恵・神戸大学キャリアセンター
題目	大学生の就職活動における就職先決定とサポートの影響について―M-GTAを用いた質的調査―
要旨	大学生の就職活動では、周囲から様々なソーシャルサポート（以降サポート）を受けて就職先を決定するが、その際に受けるサポートの提供者（「家族」「友人」「大学」「企業」など）、内容、影響などについての調査や研究は少ない。そこで就職活動を「自己分析」「情報収集」「進路決定」「応募活動」に分け、各段階で受けたサポートに関してインタビューを実施し、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる質的調査を行った。その結果17の概念が生成され、概念の生成に関係するサポートや、各概念間の影響などが明らかになった

登録番号	31
氏名・所属	○土元哲平・立命館グローバル・イノベーション研究機構 サトウタツヤ・立命館大学総合心理学部
題目	大学教員による日常的なキャリア支援—オートエスノグラフィーとしてのインタビューによる検討—
要旨	本研究は、第1著者がこれまで行ってきたオートエスノグラフィーの一環として実施したものである。本研究では大学教員であるA先生のキャリア支援の枠組みを理解し、大学教員の日常的なキャリア支援への示唆を得ることを目的としたインタビュー調査を行った。A先生が重視していた〈やりたいこと〉概念は、キャリア支援の現場で理解・応用しやすいだけでなく、従来キャリア論において問題とされてきた「やりたいこと」を積極的にキャリア支援・教育に取り入れるための枠組みとして有用である。

登録番号	32
氏名・所属	○寺田盛紀・京都先端科学大学 松尾智晶・京都産業大学共通教育推進機構 三保紀裕・京都先端科学大学経済経営学部
題目	職業基礎能力と職業観の移行過程における変化—インターンシップ経験との関連でみた内定学生と新入社員の比較—
要旨	本発表は、「プロアクティブ行動と組織内社会化に関する縦断研究」（三保紀裕代表）のうち、インターンシップの職業基礎能力と職業観への影響に関する部分（内定学生 620 名と新入社員 497 名）の分析である。分析の結果、長期インターン経験が1日や短期に対して職業基礎力と職業観に有意に作用していること、社員と同じ仕事・専門関連の仕事・課題提示の仕事の場合、ほぼ全因子にポジティブであること、そして職業観因子で単位なし無償が他より高い傾向などが明らかになった。インターンシップの在り方にこれまでにない示唆が得られた。

登録番号	33
氏名・所属	中井咲貴子・追手門学院大学基盤教育機構／佛教大学大学院教育学研究科
題目	社会人基礎力の段階的伸長に関する実証分析—PBL 型インターンシップ実施校への調査から—
要旨	経済産業省は、人生 100 年時代の下で 2006 年に提唱した社会人基礎力の見直しと充実化を図り、新・社会人基礎力（2018）として新たな視点が加えられた。それにより、社会人基礎力は高大接続で段階的に育成する必要があるが出てきた。そこで、本研究では育成プログラムの一つとして PBL 型インターンシップに着目し、高校生及び大学生の取り組み前後の社会人基礎力を調査した。その結果、高校生はチームで働く力と考え抜く力、大学生は考え抜く力と前に踏み出す力に有意な伸長が見られ、社会人基礎力の段階的伸長の順序が明らかになった。

登録番号	34
氏名・所属	○濱中倫秀・成安造形大学芸術学部共通教育センター 三井規裕・関西学院大学高等教育推進センター
題目	芸術系大学の PBL 型授業に対して学生が感じた受講価値—社会に実在する事業課題解決に取り組むことは、学生にどのような影響を与えたか—
要旨	就職・進路への意識の低さが見られる芸術系学生に対して、成安造形大学では就職・進路決定への意識向上を目的としてキャリア科目「就業力育成演習B」を開講している。この授業では、社会人ゲストから与えられた事業課題に対して、複数回のグループワークや課題提供者との対話を通して最終的に解決企画を提案する。受講を通して、授業の目的は達成されたのかを、課題価値評価尺度の測定及びインタビューを通して分析した。最初の想定よりハードな授業だったが、実際の社会を体験・理解するという点で価値を感じていたことが分かった。

登録番号	35
氏名・所属	○日高淳・国際文化学園／筑波大学大学院 田澤実・法政大学
題目	CAVTを用いた専門学校におけるカリキュラム評価の試み—職業実践専門課程の理容美容学科を事例として—
要旨	職業実践専門課程に認定されている理容美容専門学校のカリキュラム評価を企画し、CAVTを用い専門学校生のキャリア意識との関係性を実証的に検討した。研究対象機関の理容科・美容科の2学年630名に2019年7月に無名式の質問紙(全60設問)調査を行い446名から回答を得た(有効回答率67%)。カリキュラムは、選択科目と必修科目の科目群に分けたうえ、総和を求め合成変数とし選択科目群得点と必修科目群得点とし、それぞれの相関係数を求めた。その結果、カリキュラムとキャリア意識との相関を一定の範囲で明らかにした。

登録番号	36
氏名・所属	弘中貴子・高崎商科大学商学部
題目	高等教育におけるキャリア教育・就職支援体制に関する考察—短期大学の事例をもとに—
要旨	現在、大学・短期大学では、職業指導(キャリアガイダンス)が義務化され、早い段階(初年次)から実施されている。そしてこれを、2つの組織(教学組織と事務組織)により行っている。しかし、高等教育の中でも特に、大学・短期大学組織内には、暗黙のうちに根付いている教学組織と事務組織の対立がある。それらを踏まえて、本研究では、短期大学におけるキャリア教育と就職支援の実践事例をもとに、今後の高等教育におけるキャリア教育と就職支援のあり方を分析・考察するものである。

登録番号	37
氏名・所属	○福田美誉・一般社団法人未来教育推進機構／株式会社ワークアカデミー 本田直也・大手前大学現代社会学部
題目	プロジェクトベースインターンシップ参加学生の履歴考察—継続的な学びの機会提供を踏まえた今後の展望—
要旨	本稿では、複数大学生が取り組んだプロジェクトベースインターンシップの2018年度以降の実施結果について、社会人基礎力をベースとした自己評価ルーブリックの学生の書き込み記録をもとに、総括的に考察した。記述内容は(1)活動を振り返っての達成度合い、(2)今現在の自分の能力への言及、(3)学生自身の心や意欲の変化、の3つの特徴が見受けられた。この結果は、参加学生の活動の前後の変化をとらえるとともに、彼らの修了後の学び活動を継続支援していく策を考えるために有効な内容であった。

登録番号	38
氏名・所属	藤田駿介・筑波大学大学院人間総合科学研究群
題目	ドイツ連邦ギムナジウムにおけるキャリア教育ニーズの高まりと対応—バーデン＝ヴュルテンベルク州の前期中等教育段階の動向を中心に—
要旨	ドイツ連邦ギムナジウムでは、大学中退率の高さや卒業後の進路の多様化に起因して、前期中等教育段階からのキャリア教育の実施の重要性が指摘されている。バーデン＝ヴュルテンベルク州の「ギムナジウムにおける職業・進学オリエンテーション」は、2000年以降に前期中等教育段階の包含が見て取れ、先駆的事例として位置づく。大学との連携も実施しつつ、2016年版教育計画の改訂に伴っては、「経済及び職業・進学オリエンテーション：WBS」が経済科とは別に単独の教科として位置づいた点に一つの到達点を見ることが出来る。

登録番号	39
氏名・所属	堀真由美・中央大学国際経営学部
題目	オンライン授業によるキャリア教育の一考察
要旨	COVID-19(新型コロナウイルス感染症)は、世界中を激変させ、未曾有のパンデミックとなった。教育の場では、対面授業、オンライン授業にかかわらず、社会の要請に対して新たな取り組みが求められるに違いない。オンライン授業でより効果的な授業を提供するために、教員にも新しい知識とスキルが求められる。本稿では、担当するキャリア教育のオンライン授業の半期を振り返り、長期線が予想されるパンデミック対策として今後のオンライン授業のあり方や課題を考察する。

登録番号	40
氏名・所属	前田武司・京都府立大学キャリアサポートセンター
題目	大学キャリア授業におけるエントリーシート指導の重要性
要旨	就職活動におけるエントリーシートの重要性については、従来から広く認識されている。しかしどの程度影響があるのだろうか。京都府立大学では3回生前期配当のキャリア科目「キャリアデザイン演習」において、夏インターンシップに応募するためのエントリーシート作成を課題の一つにしている。そのエントリーシートの評価と実際の就職活動の結果について調査・考察を行った。就職活動結果は評価上位グループと他の学生群では顕著な差が生じていた。現実志向でのエントリーシート指導は極めて重要である。

登録番号	41
氏名・所属	○榎谷英樹・京都大学大学院地球環境学舎 浅利美鈴・京都大学大学院地球環境学舎
題目	研究活動を導入した小学校高学年児童への社会教育における環境教育が将来に与える影響
要旨	環境教育の長期的な効果を明らかにするために、約10年前に海洋社会教育施設で実践した、小学校高学年児童が一年間主体的に研究を継続する環境教育プログラム参加者に対して、成人した現在、インタビュー調査を実施した。得られたデータ M-GTA を用いて分析したところ、概念17個、カテゴリー7個が構成された。概念間の相関関係の考察を通して、参加当時の人間関係や磯浜環境、研究体験、研究手法の獲得等が、進路選択や環境的行動など、その後のキャリアに大きな影響を与えたことが示唆された。

登録番号	42
氏名・所属	町田小織・東洋英和女学院大学国際社会学部国際社会学科
題目	オンライン授業でも「対話」は可能か？—「対面なし」でのポートフォリオ作成の試み—
要旨	現在、過去、未来の私を視覚化＋言語化してまとめたポートフォリオ。その作成は、対面のワークショップでも容易ではないだろう。しかし、2020年度はすべてオンラインで実施しなければならない。一度も会わずに「対話」は可能なのだろうか。教員と学生、学生同士のフィードバック、そして自己内対話を促すことはできるのか。そもそも、個人の人生に立ち入るようなワークがオンラインでできるのか。試行錯誤の末、対面で会わずして個々の学生を深く知り、ポートフォリオ完成まで伴走することができた。その教育実践を発表する。

登録番号	43
氏名・所属	町田尚史・岡山大学全学教育・学生支援機構
題目	進路選択とソーシャルスキルに関する考察—進路選択自己効力感、ソーシャルスキル、進路選択能力における博士前期課程学生と大学生の比較—
要旨	本研究は学部学生と博士前期課程学生を比較して、ソーシャルスキル、進路選択能力および進路選択自己効力感（CDMSE）の関係性を定量調査に基づき分析している。特に先行研究では、博士前期課程学生に対してソーシャルスキル、進路選択能力、CDMSE の3 要因を取り上げて分析した研究は非常に稀であった。調査結果を定量分析したところ、学部学生に対する先行研究と同様にソーシャルスキルは CDMSE にポジティブな影響を及ぼすことが明らかになったが、その影響が博士前期課程学生において大学生よりも高い、という仮説は立証されなかった。

登録番号	44
氏名・所属	○松尾智晶・京都産業大学共通教育推進機構 三保紀裕・京都先端科学大学経済経営学部 寺田盛紀・京都先端科学大学
題目	インターンシップの教育効果に関する研究—プロアクティブ行動と進路不決断に着目して—
要旨	インターンシップの教育効果研究で、職業社会への参入後を視野に入れたものは少ない。本研究は学内外のインターンシップを対象とし、職業社会への初期適応に寄与するプロアクティブ行動と就職活動に関わる進路不決断に焦点化して、経験と将来の見通しによる分析を試みた。結果、経験有無、申込ルート、形式の違いによるプロアクティブ行動の違いが示され、経験者でも将来の見通しを持ち始める時期が大学3,4年生の群は、それより以前に見通しを持ち始める群に比べてプロアクティブ行動は低く、進路不決断が高いことが明らかとなった。

登録番号	45
氏名・所属	○松下眞治・大阪市立都島工業高等学校 辻彰彦・京都学園中学高等学校
題目	A高等学校におけるキャリアコンサルタントによる面接指導について—CC の半構造化面接を通して—
要旨	本研究は高校生の面接指導前後のキャリアコンサルタント（以下 CC）の変容についての一考察の継続的な取組で、質問紙による CC の変容に加えて、CC に対して半構造化面接を実施した。その結果、多くの CC は高校生の面接指導の経験が少なく、研修を通じてキャリアアップを目標にしていること、面接指導前の事前研修が役立ったことを挙げている。また、生徒の評価を概ね予想でき、通用したスキルや足りないスキルを理解し、面接者の質問に答えるなかで質問紙では得られなかった自分自身の客観的評価に言及することができていた。

登録番号	46
氏名・所属	松村千鶴・京都府立大学キャリアサポートセンター
題目	オンラインによる企業連携PBLの成果と課題
要旨	コロナ禍のもと、オンライン授業であっても学習量を担保し教育効果を出すことが求められる。本稿では、オンラインで行った企業連携PBLについて、自己評価の変遷等に注目して考察した。オンラインは対面に比べコミュニケーションの機微が伝わりにくく、それを補うべくSNSを含めたコミュニケーションの回数は増加した。また全員がPCで作業するため、個人の調査や思考、課題解決案の作成、協議が効率的に実施でき、個人の成果が常に「見える化」できることから、オンラインによるPBLはメリットが大きいことが分かった。

登録番号	47
氏名・所属	丸山実子・島根大学大学教育センター
題目	大学におけるオンデマンド型の授業実践報告―「キャリアデザイン」対面式授業との比較に注目して―
要旨	コロナ禍の影響を受け、対面型で実施していたキャリア科目の一つである「キャリアデザイン」の授業をオンデマンド型授業に切り替える授業プログラム開発と実践報告をする。昨年までの対面式で実施していたキャリア系科目である「キャリアデザイン」は毎年、満足度・教育的効果も高い授業評価を得ている。今回それを維持するために、いかにオンデマンド型でも対面同様に教育的質を下げないことを目標に考案し実践した。考案したコミュニケーション手法を取り入れ、昨年度の授業アンケートの結果と比較し学生の動向を探ることを目的とする。

登録番号	48
氏名・所属	三村隆男・早稲田大学教育学研究科
題目	大阪市立少年職業相談所の系譜と意義
要旨	大阪市立少年職業相談所は、1920(大正 9)年 1 月、大阪市立児童相談所に隣接し開設された。当時は職業紹介業務がようやく公設施設で始まった段階であるが、同施設は其中で、年少者職業紹介に、一般職業紹介とは異なる職業指導的支援を付加し、その後の年少者職業紹介の在り方に大きな影響を与えた。本研究は、同施設について主に当時の資料を用い、社会事業に熱心であった大阪市での成立の経緯及び年少者職業指導上果たした意義について明らかにすることを目的とする。

登録番号	49
氏名・所属	○宮下太陽・立命館大学人間科学研究科 サトウタツヤ・立命館大学総合心理学部
題目	キャリアの分岐ゾーンにおける TLMG とイメージーション
要旨	長寿化の進展により、世界は人生 100 年時代を迎えている。教育・仕事・引退という伝統的な 3 つのステージが通用しなくなり、仕事ステージの長期化と多様化が進む中で、キャリアの転換点となる能動的キャリア期から自立的キャリア期へと移行する分岐ゾーンにおいてどのような価値変容が生じているのかについて、質的研究法である TEA（複線径路等至性アプローチ）を用いて分析を行った。変容と発生を捉える TLMG（発生の三層モデル）をベースにイメージーションの概念を用いて、分岐ゾーンにおける変容プロセスを捉えた。

登録番号	50
氏名・所属	彌島康朗・敬愛大学経済学部経営学科
題目	オンライン授業、受講生の視点から—アンケート及びワークシートのテキスト分析—
要旨	急遽決定したオンライン授業に、十分な準備もできず取り組んだ方も多いことかと思えます。 目の前の課題を乗り越えるのに精一杯の中、講義する側の視点での機器やアプリの選定、使用方法、授業形式の是非が議論されがちのように見えます。ただ、授業の目的や内容、受講生の特徴に合わせた使い分けや効果に関する検証もおさなりにはできな思考えました。 そこで、オンライン授業を受ける立場からの材料も検討すべく、受講生のアンケート及びワークシートのテキストデータを中心に取り組んだ分析結果を報告します。

登録番号	51
氏名・所属	谷島竜太郎・茨城県筑西市立五所小学校
題目	校内研修を活用したキャリア・パスポート作り—児童の学びをつないでいくために—
要旨	学校は「学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感」させるための授業改善を求められていることから、校内研修でキャリア・パスポートへの理解を深めながら作成計画を立てた。小学校での学びが、今後の自分の人生や社会とつながっていることを実感させる深い学びとなるように 5 つの観点を設定し、児童の学びをつないでいく工夫をしている。「地域参画」をキーワードにさらなるキャリア・パスポートの改善とカスタマイズを行い、児童と教師のキャリア形成を促進していきたい。

登録番号	52
氏名・所属	柳瀬啓史・高知市立介良小学校
題目	自律的な「生き方・在り方」学修の可能性Ⅱ—『マイチェックシート』から見えてくるもの—
要旨	本年度より、キャリアパスポートが実施されることになった。小学校段階から「自己の生き方・在り方を見つめる学修」の積み重ねを目的としているが、もう一步踏み込んで“目指す自己像を描き続ける”補助資料として筆者が作成した『マイチェックシート』を提案したい。 自己の行動や思いを振り返り、見通しを立てながら具現策を記録していく本シートの活用過程で、自律的に自己改善に向かい、取り組み続ける児童の様子が見られた。シートの記録と児童の行動変容をもとにして、自己の将来像に対する思考と行動の移り変わりを考察する。

登録番号	53
氏名・所属	山田智之・上越教育大学
題目	共感力がレジリエンスに与える影響—オタク自認者と非オタク自認者に着目して—
要旨	本研究は、オタク自認者と非オタク自認者に着目し、共感力がレジリエンスに与える影響について明らかにすることを目的に行われた。その結果、オタク自認者は、ネットにおける共感力が、レジリエンスに負の影響を与えていた。また、ニュートラルの者は、現実の共感力がレジリエンスに正の影響を与えていた。また、非オタク自認者においては、現実の共感力とネットにおける共感力がレジリエンスに正の影響を与えていた。このように、オタク自認者のレジリエンスは、共感力によって高まらないことが明らかになった。

登録番号	54
氏名・所属	湯口恭子・近畿大学働き方改革推進センター
題目	大学生のレジリエンスがキャリア探索に与える影響
要旨	本稿は、大学生のレジリエンスとキャリア探索の関連が再現できるかを確認したものである。結果、レジリエンスの「長期的展望」と「継続的対処」が、キャリア探索の「環境探索」「自己探索」の双方に影響していた。本稿の結果は、レジリエンスとキャリア探索との関連を示した湯口（2020）をおおむね支持していると考えられる。長期的な視点でものごとを考えるレジリエンスと、うまくいかないことがあっても継続して対処していけるレジリエンスが、キャリア探索に有効であることが示唆された。

登録番号	55
氏名・所属	横江信一・石巻専修大学人間学部人間教育学科
題目	小学校教員の資質向上を図る実践プログラムに関する一考察―教師力向上セミナーの実践を通して―
要旨	今日、初等教育機関では学力低下や不登校等の課題がある中で、臨時的任用教員が各小中学校に複数配置され、正規採用教員免許を所持しているが正式に採用されない状況がある。このため、本学の教育と研究の両面から社会貢献を推進し学校教育の振興に寄与している開放センター教育連携部会と保育士・教員養成センターが連携し、小・中学校の現職教員の指導力向上に本学教員の活用を図った実践プログラムを試行し、今後の本学教職課程及び地域連携の施策立案に資する知見の収集を図ることを目的としている。

登録番号	56
氏名・所属	吉川実希・筑波大学大学院人間総合科学研究群
題目	デンマークの早期離学者に対するキャリアガイダンスを通じた支援―若年者移行支援専門機関による包括的支援とその特徴―
要旨	本研究の目的は、デンマークの若年者移行支援専門機関 UU（Ungdommens Uddannelsesvejledning）によるキャリアガイダンスを通じた早期離学者支援に着目し、近年の制度下における支援実態の全体像を整理・分析することである。 早期離学問題対策としてのキャリアガイダンスの予防・補償・介入の側面を分析枠組みとして設定し、UUの根拠法及び実地調査から得られた支援実践について分析・検討した結果、UUによる支援は予防・介入・補償の三側面全てに関与しており、それによって一専門機関を基軸とする包括的な支援の提供が可能となっていることが明らかとなった。

登録番号	57
氏名・所属	渡部昌平・秋田県立大学総合科学教育研究センター
題目	日本人の国民性に配慮したグループワーク運用の効果と課題
要旨	日本人若者につき、高田（1999）は西欧人青年に比べて相互独立性が低く、相互協調性が高いことを指摘する。本研究では、日本人若者の低い相互独立性と高い相互協調性に配慮したグループワークを行うことの効果について探索的に検討した。結果、事前に注意を与え繰り返し練習することで、学生の成長を促すことができた。他方、「妥協が大事と学んだ」「愛想笑いをするようになった」「つまらない内容でも話を続けるようになった」などネガティブと取れる感想もあり、フォローアップの必要性も示唆された。

6 個人研究発表(ポスター発表)

登録番号	1
氏名・所属	○網谷綾香・大阪成蹊短期大学幼児教育学科 細川美幸・西南学院大学 岡本尚子・鳥栖市立若葉小学校
題目	教員の「協働性」を高める研修教材の開発—シミュレーションゲームを用いた教職キャリア発達支援の試み—
要旨	今日の教育現場では、教員がチームの一員として積極的に協働していく力がより一層求められている。多忙な教育現場においてどのようにすればより効率的に協働性を高めていくことができるのだろうか。また、教員養成段階でも教員としての協働性を高めることは可能だろうか。その一つの可能性として本発表では、シミュレーションゲーム形式による研修教材の活用を提案した。協働性を高めるための新たな教材開発の試みを紹介し、その活用のあり方について考察した。

登録番号	2
氏名・所属	○井上奈美子・福岡県立大学人間社会学部 聞間理・九州産業大学 後藤和也・山形県立米沢女子短期大学
題目	レゴ®シリアスプレイ®メソッドを用いたインターンシップ事前事後教育の共起ネットワーク解析
要旨	本稿は、インターンシップ (IS) の事前事後教育でのレゴブロックを用いた内省を深める方法の教育効果についての報告である。大学1・2年生を対象とし、インターンシップに関わる重要な問いをブロックで表現し、意見交換をさせた。その効果を検証するために共起ネットワーク法を用いて解析を行った。学生は自分を取り巻く環境の視野を広げ、事後には職業選択の視野は拡張し、課題を明確にできた。低学年生にとってブロックが言語表現の補完となることも一部確認されたが、今後は母数を増やし更に深く検証を重ねていきたい。

登録番号	3
氏名・所属	井上仁志・兵庫県立尼崎稲園高等学校
題目	カリキュラム・マネジメントにおけるキャリア教育の試み—総合的な探究の時間、特別活動を中心とした教育課程の編成と教育方法の検討—
要旨	文科省「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」事業の実践校に指定されたA高校では、現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究を担当する。そこで「総合的な探究の時間」を中心に据えた、特別活動を含めた教科横断的な取組を通して、キャリア教育で重要な要素である「知の総合化」という視点を持った生徒の育成を目指した。「自己の学びのカリキュラム・マネジメント」を育成するための手法として「知の総合化ノート」を活用した教育方法を試みる。

登録番号	4
氏名・所属	○岡野聡子・奈良学園大学人間教育学部 降幡仁美・株式会社マイナビ
題目	PBL (Problem-Based Learning) の教育効果に関する研究—協同作業認識尺度を用いた検討—
要旨	本研究は、PBL (Problem-Based Learning) の教育効果について、協同作業認識尺度を用いて検討することを目的とする。PBL に関する先行研究では、三重大学高等教育創造開発センター (2007) では、PBL の実践マニュアルを作成し、授業効果測定 (中川、2019) や多分野的な PBL の研究と実践に対する研究 (杉山・松下、2018) 等があり、PBL の教育効果について論じられている。本研究では、PBL をチームで取り組むことにより、協同作業認識に変化が生じるか否かを検証する。結果、協同作業認識尺度得点から、PBL 実践にて仲間と共に作業することの有効性の認識が高まったと思われる。

登録番号	5
氏名・所属	小澤貴史・拓殖大学政経学部
題目	進路指導及びキャリア教育で求められる教員に必要なコンピテンスについて—「ヤングケアラー」の問題を中心として—
要旨	進路指導及びキャリア教育で求められる教員のコンピテンスを考える上で、生徒自身のキャリア形成や学校生活に深刻な影響を与えていると推察される「ヤングケアラー」の問題に迫り、広範で多角的な社会的事象に対する分析やアセスメント、多職種協働や福祉に対する知見を高める必要性について言及することを目的とする。方法としては、今年6月に毎日新聞が実施した調査を用い、「ヤングケアラー」の現状把握を試みた。先行事例として、「埼玉県ケアラー支援条例」を挙げ、社会構造の変化について今後の課題としたい。

登録番号	6
氏名・所属	鎌倉哲史・労働政策研究・研修機構キャリア支援
題目	日本版 O-NET の職業興味(RIASEC)と仕事価値観の関係性
要旨	職業情報提供サイト「日本版 O-NET」の仕事価値観について、Holland (1959)の職業興味(RIASEC)との関係を示しつつ紹介することを目的とした。概念的整理では仕事価値観が仕事内容自体というより仕事から得られる満足感に関する概念であるとした。データの相関については、研究的な職業興味が合致する職業では専門性について満足感を得やすい等、両情報領域の関係性を可視化した。また各仕事価値観を被説明変数とした重回帰分析により職業興味による説明の程度を相対的に比較した。最後に両者の使い分けについて筆者の考えを述べた。

登録番号	7
氏名・所属	○菊池涼介・武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部 坂井裕紀・武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部
題目	大学生のキャリア意識と学習意欲の関連—70 人の大学生の結果から一考察を述べる—
要旨	本研究では、大学生のキャリア意識と学習意欲の関連を明らかにするために大学生 112 名を対象にオンライン調査を実施した。その結果、キャリア意識高群は学習への能動的姿勢があり、キャリア意識低群は学習への能動的姿勢がないことが示された。また、キャリア意識の高い学生は学習時間が長く、キャリア意識の低い学生は学習時間が短いことが示された。そして、キャリア意識の高い学生は読書数が多く、キャリア意識の低い学生は読書数が少ないことが示された。これらの結果からキャリア意識と学習意欲には関連がある可能性が示唆された。

登録番号	8
氏名・所属	辰巳哲子・リクルートワークス研究所
題目	キャリア教育政策の変化が工業高校のキャリア教育に与えた影響
要旨	キャリア教育研究は「政策レベルの政策動向を扱った研究」と「現場レベルでの実践を扱った研究」が多く、両者の関係を一貫してとらえている研究は少ない。そしてそのことが多義的なキャリア教育の効果検証を難しくしている。本研究ではキャリア教育政策の変化が工業高校におけるキャリア教育にどのような影響を与えたのか、政策の節目となる時期の3か年の調査データを分析した。その結果、2002 年は「就職指導」2008 年は「進学指導」2014 年は「進路形成」と、政策の変化によってキャリア教育の実践で強調される学習内容が異なることが示された。

登録番号	9
氏名・所属	○原瑞穂・山梨大学キャリアセンター 日永龍彦・山梨大学大学教育センター
題目	ライフライン法を用いたキャリア教育が学生の自尊感情に及ぼす影響—COVID-19 対策におけるオンライン式授業から—
要旨	本調査は、ライフライン法を用いたキャリア教育の自尊感情へ及ぼす影響と、オンライン式による授業効果の検証を目的とした。授業効果を定量的に検証するために、令和2年度前期の受講生を対象に、授業前後の自尊感情尺度の得点の測定を行うとともに、一枚ポートフォリオアセスメント（OPPA）の記述を用い、得られた内容を分析した。26 名の学生を対象に分析した結果、自尊感情は1%有意で向上し、ライフライン法を用いた授業の効果が定量的に確認された。一方、OPPA の記述は、対面式で確認されていた記述内容と異なり、自己理解の深まりが少なかった。

登録番号	10
氏名・所属	○平野雅子・兵庫教育大学学校教育研究科 森本哲介・兵庫教育大学
題目	キャリア教育に対する教員の認識—教員アンケートから考える研修の方向性—
要旨	キャリア教育の課題の一つに教員の理解不足があり、研修の必要性は強く認識されている。しかし従来の研修が十分な効果を上げているとは言い難く、どのような研修が教員の実践力を高めるために有効かは明らかではない。よって中学校の教員への調査を通して、キャリア教育に対する教員の認識における課題と、そこから考え得る教員研修の方向性の2点を検討した。その中でキャリア教育を「キャリア発達支援」と考える認識変容と、「キャリアの視点」の獲得を促す教員研修が実践力を高める上で有効なのではないかと考えた。

登録番号	11
氏名・所属	○前田吉広・福山大学大学教育センター 藤井香帆・株式会社ダスキン福山
題目	振り返りを促進する学習データのリ・デザイン—ポートフォリオを活用したキャリア教育支援ツールの試作と考察—
要旨	近年、キャリア教育にポートフォリオを活用しようという試みが急速に進んでいるが、それに蓄積された学習成果物をキャリア形成に結びつける手法・研究については、未だ数少ない状況である。本研究では、蓄積された学習成果物をキャリア形成につなげる振り返りのあり方を導き出すため、異なる2種類のワークシートを用いて振り返り記述の内容を比較し、ワークシートの構成要素・デザインの違いが考察に与える影響を調査した。その結果、考察の視点を増やす工夫をワークシートに施すことによる一定の効果を実証することができた。

登録番号	12
氏名・所属	宮田延実・人間環境大学看護学部
題目	子どもの死生観が形成される背景—日本とタイの子どもの死後イメージの違いに着目して—
要旨	子どもは、幼児期に死の現実的意味を理解するにもかかわらず、年齢が高くなるにつれて「生まれかわり思想」が増加する傾向にある。「生まれかわり思想」は、仏教思想から由来する輪廻転生や地獄のイメージによって形成された可能性がある。そこで、本研究では、仏教国であるタイの子どもは、どのようにして仏教思想が内面化されるかについて調査し、日本とタイの子どもの死後世界のイメージを比べながら、日本の小学生が「生まれ変わり思想」を形成していく背景について検討する。

登録番号	13
氏名・所属	森本康太郎・大阪国際大学基幹教育機構
題目	学生用イラショナルキャリアビリーフ尺度の作成
要旨	本研究では、キャリア支援に REBT（論理療法）を適用することを念頭に置き、学生の持つイラショナルなキャリアビリーフを測定する尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。その結果、「非現実的な楽観」「自己に対する無力感」「社会的評価へのとらわれ」「完璧な就職活動」の4因子構造・24項目からなる尺度が作成された。内的整合性の確認、確認的因子分析、他尺度との相関分析の結果より、作成された尺度が、一定の信頼性と妥当性を有することが示された。

登録番号	14
氏名・所属	○山口明日香・高松大学発達科学部 萩原真由美・サンフランシスコ州立大学 五木田ターニャ・バージニアコモンウェルス大学
題目	米国の College and Career Readiness とキャリア教育との比較検討ーコンセプトと取り扱い内容の共通性に焦点をあててー
要旨	本発表は、障害のある生徒の高等教育への移行支援やキャリア形成支援を検討するために、米国で導入されている College and Career Readiness（以下、CCR）とキャリア教育と比較検討し、そのコンセプトや取り扱い内容の共通性に焦点を当てて整理した。結果、CCR は後期中等教育期間に行動志向基に4つの構成モデルで実施あり、高等教育への適応へもねらいとされていた。一方キャリア教育は、義務教育段階から取り組まれているが、高等教育への接続やその後の適応については、初年次教育が補っている階層的構造と取っている点に国内の特徴があると考えられた。

登録番号	15
氏名・所属	吉倉英基・東放学園キャリアサポートセンター
題目	専門学校におけるガイダンスカウンセリングの探求ーICTの活用によるキャリア・ガイダンスの実践ー
要旨	近年、多くの企業は Web エントリーや ICT を利用した会社説明会、入社面接試験などの手法が主流となりつつあり、学生は ICT のスキルを体得していないと就職戦線に乗る事が出来なくなっている。担当する授業において 2017 年度から 2019 年度の 3 年間に渡り「ICT スキルの底上げ」を目的としたキャリア・ガイダンスを実施した。今回は「ICT の活用によるキャリア・ガイダンスの実践」という副題の下、見えてきた状況・課題・解決方策・今後の展望などを記述していきたい。

登録番号	16
氏名・所属	吉村憲治・上越教育大学大学院
題目	中学校における，教師の存在と生徒の勤労観・職業観の関連
要旨	本研究の目的は，中学生を対象に，生徒にとって身近な職業人モデルである教師の存在と生徒の心理的特性や生き方の指標となる価値観の 1 つである勤労観・職業観の関連について検討することであった。その結果，教師の存在，特に想起した教師の数が生徒の心理面に密接に関連しており，そこで醸成された心理的状态が価値観形成と深く関連していることが示唆される。つまり，多くの教師とのかかわりを持てる環境にあることや信頼できる教師がいることは価値観形成の一旦を担っていることを示唆する。

7 会員企画シンポジウム

<シンポジウム I>

臨床心理学はキャリア教育に どのような貢献ができるのか？

話題提供者：永作 稔（十文字学園女子大学）

水野雅之（東京家政大学）

軽部雄輝（国際医療福祉大学）

田中佑樹（和洋女子大学）

指定討論者：佐藤 純（茨城県立医療大学）

下村英雄（労働政策研究・研修機構）

企画・司会：軽部雄輝（国際医療福祉大学）

田中佑樹（和洋女子大学）

企画趣旨

臨床心理学は、心理的な問題を抱える個人を理解し援助していくことに重きを置く。キャリア教育は、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成することを主眼とする。学校教育と職業生活の円滑な接続が目指されるなかで、進路選択の主体者としての個人はさまざまな局面で心理的葛藤や困難を抱きうる。学校におけるクラス等の集団を対象とした画一的なガイダンス型のキャリア教育も重要である一方で、最終的には各個人の中にどのように落とし込み、自己の個性の理解や主体的に進路選択を行っていける素養の育成を促進していくかがポイントとなってくる。「個別性（個人差）」の理解を重視する臨床心理学の考え方がキャリア教育にいかに関与しうるのか、本企画では、児童生徒、大学生、社会人といった発達段階ならびに個人を取り巻く環境が異なる対象者ごとに、キャリア教育的実践に寄与しうると考えられる臨床心理学的な知見や取り組みを紹介し、議論したい。

＜シンポジウムⅡ＞

全国調査「キャリア教育に関する総合的研究」の 第一次分析結果からみえた現在地と方向性

話題提供者：京免徹雄（筑波大学 人間系）

山田 亮（東洋英和女学院大学 人間科学部）

望月由起（日本大学 文理学部）

立石慎治（筑波大学 教学マネジメント室）

司 会：藤田晃之（筑波大学 人間系）

企 画 者：藤田晃之（筑波大学 人間系）

企画趣旨

文部科学省及び国立教育政策研究所においては、キャリア教育に関する実態を把握するとともに、それらに関する在校生の意識等も明らかにし、各学校における取組の改善・充実を図るための基礎資料を得ることを目的として、7年に一度、全国調査を実施している。最新の調査は、2019（令和元）年7月～10月にかけて小学校、中学校、高等学校を対象に行われ、その結果は『キャリア教育に関する総合的研究 第一次報告書』として、2020（令和2）年3月に発行された。2012（平成24）年の前回調査から7年が経過する中で、2017（平成29）年、2018（平成30）年に改訂された学習指導要領では、特別活動を要に学校教育全体でキャリア教育の充実を図ることが明記され、各学校での実践も新たなステージを迎えている。

そこで、本シンポジウムでは、その調査結果の分析や報告書の執筆に関わった研究者が、その第一次分析結果から明らかになったことを報告し、キャリア教育の今後の方向性を参加者と一緒を探っていきたい。

☆NHKの番組を【無料】でお貸し出しします☆

NHKティーチャーズ・ライブラリー

平和学習、キャリア学習、人権学習、社会、理科、国語、道徳などの授業でNHKの番組を活用してみませんか？全国の小・中・高校・大学の先生が選んだ「NHKスペシャル」などのDVDを無料でお貸し出しします。

詳しくはホームページへ ↓ パソコンやスマホで簡単に申し込みます！

<https://www.nhk.or.jp/archives/teachers-l/> ↓



【貸し出し条件】 学校での授業などの教育活動に利用できます。
実際に利用する教員の方がお申し込みください。
学校での利用を確認する利用報告書をご提出頂きます。

【貸し出し枚数】 1回(1人)につきDVD3枚まで。

【貸し出し期間】 1か月(※セットの貸し出しは2か月)

【貸し出し費用】 何回でも無料です。ただし送料のみご負担ください。

(返却時に往路分送料の切手 370 円を同封してください)

【お問合せ】 NHKティーチャーズ・ライブラリー TEL03-3462-7932
月～金 10:00～18:00 (※土日祝日はお休みです)

※ガイドブック最新版を無料でお送りしています！

生きる力を育むキャリア教育、 進路指導を全力で応援します。

★中学生向け教材（学校採用品）★

学習指導要領準拠

2020年度版

豊富な資料で
使いやすい！

中学生生活と進路

各都県教育研究団体【編】／公益財団法人日本進路指導協会【監修】

※ホームページ「進路指導 net.」から、年間指導計画案がダウンロードできます。



学習指導要領の改訂に合わせ、大幅改訂を行いました。

- 共通ページをオールカラー化
- 直接書き込めるワークシート（16ページ）を増補。キャリア・パスポートにも対応（テキストは全112ページに）
- ユニバーサルデザインフォントの使用
- Society5.0など時代の変化に柔軟に対応

など

1・2・3学年別／B5判／各112ページ／各定価600円（本体545円＋税）

岩手県・秋田県・山形県・宮城県・福島県・茨城県・栃木県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・新潟県・石川県・愛知県・奈良県・滋賀県・島根県・山口県・愛媛県・福岡県・佐賀県・長崎県・大分県・熊本県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県・全国版

◎進路学習ポートフォリオ

中学生生活と進路（2020年度版）

学級ノート

全国版・
鹿児島県版・
いわき市版・
新潟県版
・鹿児島県版・
沖縄県版



B5判／各32ページ

各定価300円（本体272円＋税）

◎授業準備をサポート

中学生生活と進路（2020年度版）

教師用指導書

B5判／各160ページ

各定価600円（本体545円＋税）

これまで無償献本していた指導書を大幅拡充して有償化。授業展開例に加え、生徒用テキスト、ワークシート、学級ノート（別売）の本文ページを収録しました。
併せて学校ごとの事情に即して改変可能なダウンロードデータ（Word、A4）への誘導も記載しています。

◎小学校向けキャリア教育テキスト

小学生の いきかた発見ブック



A4判／各48ページ
定価550円
（本体500円＋税）

小学校向けキャリア教育テキストの決定版！将来の生き方や進路を考える題材を数多く取り上げています。キャリア・パスポートにも対応。

株式
会社

実業之日本社 教育図書出版部

〒107-0062 東京都港区南青山 5-11-9 レキシントン青山 4F TEL:03-6809-0452

ご注文専用フリーダイヤル（FAX）

0120-273-913

【ホームページ／進路指導 net.】

<http://www.j-n.co.jp/kyouiku/>

全国 **7,000** の学校、**110** 万人が利用する

EduTown

キャリア教育・職業調べサイト

あしたね

「EduTown あしたね」は全国の小・中・高校の授業で利用されている

国内最大級のキャリア教育・職業調べの学習サイトです。

350 職種、500 人以上の豊富なインタビュー記事を掲載しています。

記事にはルビを振り、小学校高学年から読めるわかりやすい内容で、職業ごとのリンク集も充実しています。

授業用ワークシートの送付

お申し込みいただいた学校へ授業用のワークシートを送付いたします。
サイトを見ながら3時間で行える内容になっています。

小学生版ワークシート

3
種類

- 1 職業認知編
さまざまな職業、職業の持つ役割
- 2 自己認知編
自分の性格に合う仕事・職業
- 3 職業観編
仕事内容、やりがい、大変なこと、
必要な能力

中学生版ワークシート

3
種類

- 1 自己認知編
自分の性格に合う仕事・職業
- 2 職業観編
仕事内容、やりがい、大変なこと
- 3 進路編
必要な能力、進路の選択肢、
今からやるべきこと

ご利用までの
流れ

EduTown あしたね

Web からお申し込み、
もしくは FAX でお申し込み

事務局

児童・生徒の ID (人数分) と
ワークシートを発送

学校

ご利用開始

● 学校の先生方へ

「EduTown あしたね」は **すべて無料** でご利用いただけます。キャリア教育の一助として、ぜひご活用ください。

<https://ashitane.edutown.jp/> >>>



あしたね

検索

●「EduTown あしたね」のお申し込みは、[あしたねトップページ](#) ▶ [学校の先生へ](#)

●「EduTown あしたね」に関するお問い合わせは、下記まで

ユーザーサポート:

0120-29-3363

E-mail:

soft@tokyo-shoseki.co.jp

Copyright© TOKYO SHOSEKI CO., LTD. All rights reserved.

※内容及びサービスは予告無く変更する場合があります。

高等学校から職業社会への移行プログラムに関する研究

岡部 敦著 8000円
生徒にとって意味ある高校教育とは何か？本書は、カナダの事例から、普通教育と職業教育の二重性の実現をめざす教育政策と内容を明らかにし、可能性を検討した。

フランスの学校教育におけるキャリア教育の成立と展開

京免 徹雄著 10000円
フランスにおけるキャリア教育について、その成立から現代に至るまでを制度と実践の両面から検討。進路形成に関する機能の変容とその帰結を明らかにする。

サポート資源が進路選択および就職活動に及ぼす影響

水野 雅之著 6000円
大学生はいかにして学校教育の総決算である進路選択と就職活動を乗り越えるのか。その問いに、本書ではサポート資源という観点からアプローチしている。

社会教育主事に求められる役割

桜庭 望著 6500円
歴史的背景から社会教育主事制度の変遷を辿り、所属組織やキャリアが資質・能力獲得に与える影響を実証的に研究。今日の社会教育主事に期待される姿を論ずる。

勤労者のソーシャルサポートと精神的健康に関する研究

片受 靖著 6000円
勤労者のソーシャルサポートと精神的健康との関連について、サポートの送り手にも着目した調査を実施。勤労者の立場に配慮した支援体制の構築を目指す。

産業教育学—産業界と教育界の架け橋—

三好 信浩著 2500円
著者長年の研究成果から、産業界と教育界との協力に不可欠な新しい学問領域「産業教育学」を確立。刻々と変化していく産業社会に対応するための人間育成論を展開。

発達障害児者のライフプランニングに関する研究

清水 浩著 8000円
発達障害児者の生活を充実させるために必要な人生設計を中心としたライフプランニングについて、支援方法や自立活動の指導との関連の視点からまとめた研究である。

家庭と仕事の心理学—子どもの育ちとワーク・ライフ・バランス—

尾形和男編著 2000円
仕事と生活のあり方について現状と問題点を確認し、夫婦関係、ストレス、家族機能に及ぼす影響を調査。ライフステージと家族形態の違いも視野に入れて検討した。

大学生のADHD特性と進路決定に関する実証的研究

篠田 直子著 6000円
大学生のADHD特性に対する進路決定への影響を確認し、質問紙を用いたグループワークを提案。障害学生支援にかかわる関係者に対して、具体的な支援法を開発。

大学生におけるキャリア選択の遅延

若松 養亮著 10000円
大学3年次後半でもなぜ進路の意思決定が出来ないのか、そのような学生への援助はいかにあるべきかについてこれまでの理論と量的・質的データから多面的に迫る。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風 間 書 房

(URL) <http://www.kazamashobo.co.jp>
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp

小学生からのキャリア教育の第一歩に最適！

仕事の歴史とこれから

監修：筑波大学教授 藤田晃之
藤子プロ
まんが：藤子・F・不二雄

どんな
仕事があつたの
かな？

どんな
仕事か
したい？

歴史を学んで、将来の
仕事について考えよう！

文明の発展と仕事の広がり歴史を俯瞰し、
将来の仕事について考えていく本です。
今後、生まれる職業は？
コンピュータは人間より賢くなる？
時代が変わっても必要な力とは？
など、誰もが気になる関心の高い
「これから」のテーマも盛り込みました。
将来の職業を考える資料になります。



©藤子プロ

B6版／196ページ 定価935円(税込)

小学館

教育の「いま」をつかむために。時事通信出版局の本



最新 教育キーワード 155のキーワードで押さえる教育
筑波大学人間系教授 ほか
藤田晃之・佐藤博志・根津朋実・平井悠介 [編著]
●定価：本体2,500円＋税 ISBN: 978-4-7887-1619-3

新学習指導要領と第3期教育振興基本計画
学校・学習支援機関
教育施策・教育行政
教師
子ども・家庭・社会
学びを支える理論

「教育」をよむ、「教育」をたどる、「教育」がわかる。現代日本の教育、155の論点。
各ジャンルごとに、現代日本の教育とその課題の解決を考える上で不可欠なキーワードを厳選し、詳細に解説する。



最新 教育データブック 119のデータで読み解く教育
筑波大学人間系教授 藤田晃之 [監修]
●定価：本体3,200円＋税 ISBN: 978-4-7887-1617-9

初等中等教育
高等教育
子どもと生活
教師をめぐる状況
生涯学習と社会教育
教育の国際化
世界で進む教育改革
財政と教育

8つのジャンルに分け、いじめの認知件数、子どもとインターネット、教員の勤務の状況など、最新のデータを網羅。
テーマごとに必要最低限な最新データを抽出し、徹底解説！



時事通信出版局

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル8F
tel.03-5565-2155 fax.03-5565-2168 <https://bookpub.jiji.com>

社会正義のキャリア支援

個人の支援から個を取り巻く社会に広がる支援へ

四六判，344頁 定価（本体2,700円＋税）

下村英雄（労働政策研究・研修機構主任研究員，日本キャリア教育学会会長） 著

いま，全世界で広がりつつある，
社会正義＝社会的公正を実現するキャリア支援。
本邦初の本格的な概説書。



目次

- | | | | |
|----|----------------------------------|----|----------------------------|
| 序章 | 社会正義のキャリア支援とは | 5章 | 3つの可能なプラクティス②
——エンパワメント |
| 1章 | 欧州キャリアガイダンス論 | 6章 | 3つの可能なプラクティス③
——アドボカシー |
| 2章 | 多文化キャリアカウンセリング論 | 終章 | 社会正義の実践に向けて |
| 3章 | 社会正義のカウンセリング論 | | |
| 4章 | 3つの可能なプラクティス①
——深い意味でのカウンセリング | | |

SOCIAL JUSTICE

〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15
<http://www.toshobunka.co.jp/>

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519

大学生のためのキャリアデザイン 自分を知る・社会を知る・未来を考える

川崎友嗣編著 安川直志／安川志津香／堀田三和著

*B5判美装カバー144頁 2019年9月刊 2000円

キャリア教育やキャリア支援がさまざまな形で実施されているなか、まだ自分の将来が見えない大学生が、将来どう生きていきたいのかに気づき、実現に向けてどう歩み出すのかを考えるきっかけとなる1冊。

主な目次

はじめに

1 社会で働くとは

- 1 働くことを知る
 - 2 産業と職業
 - 3 職業世界を眺める
 - 4 産業とは何か
 - 5 私にとっての「働く・就職する」とはについて考える
- 社会で働くために〈第1部のまとめ〉

2 自分を知るとは

- 6 なぜ、自分を知るのか
 - 7 時間をとおして自分を知る
 - 8 環境をとおして自分を知る
 - 9 職業との関わりから自分を知る
 - 10 「私」というキャラクター
- 自分理解を深めるために
〈第2部のまとめ〉

3 将来を考えるとは

- 11 なぜ、将来を考えるのか
 - 12 私のワークとライフを考える
 - 13 自分の将来を描く
 - 14 キャリアプランをつくる
 - 15 キャンパスライフから始める
- 将来展望をもつために〈第3部のまとめ〉
キャリア教育概説——何のためのキャリア教育か
引用・参考文献／索引

◎好評既刊

大学生のためのキャリアデザイン はじめての課題解決型プロジェクト

松田剛典／佐伯 勇／木村亮介編著

*B5判美装カバー144頁 2019年4月刊 2000円

MINERVAはじめて学ぶ教職 19

キャリア教育

吉田武男監修 藤田晃之編著

*B5判美装カバー208頁 2018年11月刊 2200円

ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1 *表示価格税別 目録呈
TEL 075-581-0296 FAX 075-581-0589 www.minervashobo.co.jp/

日本キャリア教育学会第42回研究大会 実行委員会組織

実行委員長 藤田 晃之 (筑波大学 人間系)

実行委員会事務局長 京免 徹雄 (筑波大学 人間系)

運営委員

立石 慎治 (筑波大学 教学マネジメント室)

安里 ゆかし (筑波大学大学院 博士前期課程*)

芦沢 柚香 (筑波大学大学院 博士後期課程***)

藤田 駿介 (筑波大学大学院 博士後期課程***)

峯 啓太郎 (筑波大学大学院 博士前期課程**)

吉川 実希 (筑波大学大学院 博士後期課程***)

*筑波大学大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
博士前期課程 教育学学位プログラム (教育基礎科学サブプログラム)

**筑波大学大学院 人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻

***筑波大学大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
博士後期課程 教育学学位プログラム

日本キャリア教育学会第42回研究大会 大会プログラム

発行日：2020年9月15日

発行者：日本キャリア教育学会第42回研究大会実行委員会

TEL：029-853-4598 (筑波大学人間系教育学域事務室)

E-mail: jssce2020@human.tsukuba.ac.jp

おきなわ教育ラボ

Okinawa Educational Laboratory

沖縄県への修学旅行・研修旅行
(事前学習・事後学習含む)について
学校のご要望に応じてお手伝いいたします。
詳しくは下記へお問い合わせください。

有限会社おきなわ教育ラボ

沖縄県浦添市宮城6丁目5番1号2階

TEL: 098-988-0481 FAX: 098-988-0482

E-mail: yumekanae@ocean-21.co.jp

新版 キャリア教育概説

日本キャリア教育学会が総力を挙げて編集した概説書を **12年ぶりに改訂**。基礎的な理論から最新の実践、歴史的な経緯、諸外国の動向まで、この1冊でキャリア教育のエッセンスがすべてわかる！

研究者はもとより、カウンセラーや進路指導担当者も必携。

期間限定特典

※2020年10月31日まで

QRコード先の専用ページ限定で、
クレジットカード決済のみになります

特別価格 →
2,822 円 (税込)

[通常 3,135 円 (税込)]



新版 キャリア教育概説

日本キャリア教育学会 編

東洋館出版社

ISBN978-4-491-4264-0

著者：日本キャリア教育学会 編

判型：A5判・272頁

発売日：2020年9月7日

 **東洋館出版社**

〒113-0021 東京都文京区本駒込5丁目16番7号

TEL 03-3823-9206

FAX 03-3823-9208

<http://www.toyokan.co.jp>